

## 令和5年度 芸術科 「書道Ⅰ」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	理数科 1年H組 選択者
教科書	「書道Ⅰ」（東京書籍）	副教材等	なし

## 1 学習の到達目標

芸術の幅広い活動を通して、各教科における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化を豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1)芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技術を身に付ける。
- (2)創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3)生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

## 2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	■オリエンテーション	書写から書道へ	・書道の分野・書体・古典と臨書、用具用材、姿勢・執筆法を学習し、書写と書道の違いを理解する。	ワークシート
	5	■漢字の書楷書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楷書の用筆法・結構法</li> <li>・楷書の成立と唐の四大家</li> <li>・楷書の比較</li> <li>・九成宮醴泉銘</li> <li>・孔子廟堂碑</li> <li>・雁塔聖教序</li> <li>・自書告身</li> <li>・牛橛造像記</li> <li>・鄭義下碑</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楷書の用筆法・結構法・成立を知り、唐の四大家の書風の違いをグループで話し合い、発表する。</li> <li>・古典それぞれが持つ、多様な表現方法、用筆法の違いを鑑賞し、表現する。</li> <li>・北魏時代と唐時代の楷書を比較し、その違いを知る。方筆と円筆の特徴を鑑賞し、臨書する。</li> </ul>	ワークシート 提出作品
	6				
	7	楷書の創作	・半紙五字の創作	・習った楷書の古典から選んで、半紙五字で創作を行う。	提出作品
後期	8	行書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴</li> <li>・蘭亭序</li> <li>・風信帖</li> <li>・争坐位分稿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴や用筆法を理解する。</li> <li>・筆者や時代背景を理解し、古典を鑑賞する。</li> <li>・それぞれの古典の書風を表現する。</li> </ul>	ワークシート 提出作品
	9				

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	篆書	<ul style="list-style-type: none"> <li>篆書の成立と用筆法</li> <li>泰山刻石</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>篆書の成立と特徴を知る。</li> <li>泰山刻石を臨書し、篆書の用筆法を理解する。</li> </ul>	ワークシート 提出作品
	11	仮名の書	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の成立</li> <li>仮名の筆使い</li> <li>連綿</li> <li>変体仮名</li> <li>蓬萊切</li> <li>高野切第三種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本で独自に使われる仮名の成立と字源について学習し、理解を深める。</li> <li>平仮名と変体仮名の単体を学習する。</li> <li>仮名独特の連綿の方法を知る。</li> <li>古典を臨書し、用筆法や連綿から生まれる美しさを理解する。</li> </ul>	ワークシート 提出作品
	12				
		創作	漢字の創作	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具用材の違いによる表現の違いを鑑賞する。</li> <li>古典の特徴や技法を生かした創作の方法を知り、表現する。</li> </ul>	提出作品
	1	漢字仮名交じりの書	<ul style="list-style-type: none"> <li>楷書と平仮名</li> <li>行書と平仮名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した漢字及び仮名を生かし、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の創作をする。</li> <li>題材を自分で選択し、形式、構成を工夫する。墨の濃度を変えることによる作品効果を鑑賞する。</li> <li>書体を変え、漢字と仮名の調和を考える。</li> <li>完成した作品を互いに鑑賞し、グループ活動をする。</li> </ul>	ワークシート 提出作品
	2				
	3				

### 3 評価の観点

知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

### 4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度に基づき、総合的に評価します。
---

### 5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

<p>中学校までの書写と高校からの書道は求められることが全く違います。授業に集中し、作品制作を行いましょう。準備や片付けによって、どうしても制作時間が短くなります。書き足りない人は積極的に放課後等書きに来てください。授業の際は早めに来て準備をすると、制作の時間が延びます。また、欠席の際には必ず後日作品を提出しましょう。（提出がないと評価できません。）</p>
--